

高知県感染症発生動向調査（週報）

2016年 第28週 （7月11日～7月17日）

★お知らせ

○夏型感染症（ヘルパンギーナ・咽頭結膜熱（プール熱）・手足口病）に気を付けて！

ヘルパンギーナ・咽頭結膜熱・手足口病は夏期を中心に流行するウイルス性の感染症です。

これらの夏型感染症は主に飛まつ感染、接触・経口感染により感染が拡大します。幼稚園、保育園、学校等の集団生活ではうがい、手洗い等の予防対策に加えて、タオル・コップ等の共用を避ける等して、感染予防に努めてください。

○ヘルパンギーナに気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第27週の3.93から第28週は3.53とほぼ横ばいですが、中央西、須崎、安芸で増加しています。中央西では警報値を超え、高知県全域と中央東、高知市、須崎、幡多では注意報値を超えています。全国的に報告数が増加しています。

ヘルパンギーナは、38℃以上の突然の発熱の後、のどの奥に水ぶくれが吹き、水ぶくれが破れた際の痛み等から、食事や水分を十分にとれないために脱水症状になることもあります。その後2～4日で解熱し、7日程度で治ります。合併症としては、熱に伴う熱性けいれんとまれに髄膜炎や心筋炎が生じることがありますが、ほとんどの場合予後は良好です。

ワクチン等の特別な予防法はなく、感染を防ぐためには患者との濃厚接触を避け、手洗い、うがい、咳エチケットなどの一般的な予防法を励行しましょう。

○咽頭結膜熱（プール熱）に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第27週の0.47から第28週は0.33と減少していますが、中央東で増加し、須崎では注意報値を超えています。

咽頭結膜熱は、例年5月中下旬に患者数が増加し始め、7月下旬から8月上旬をピークに流行が見られる夏期の疾患で、プールを介して流行することが多いことから、「プール熱」とも呼ばれています。

感染経路は通常、飛まつ感染または手指を介した接触感染ですが、プールでは眼の結膜からの感染も考えられています。以下のことに気を付け、感染予防に努めましょう。

- 1) 流行時には流水と石けんによる手洗い、うがいを励行しましょう。
- 2) 感染者との密接な接触は避けましょう。
- 3) タオル等は別のものを使いましょう。
- 4) プールからあがった時はシャワーをよく浴びましょう。

○流行性耳下腺炎（おたふく風邪）に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第27週の0.60から第28週では0.93と増加しています。中央西、中央東、高知市で増加し、中央西では注意報値を超えています。感染症情報収集システムでは32例の報告があり、特に幡多や中央東保健所管内の小中学校等で流行が見られるという報告もあります。

流行性耳下腺炎は、3～6歳の小児に多い感染症です。耳の下やあごの下の腫れと痛みが特徴です。通常、1～2週間で軽快しますが、まれに無菌性髄膜炎、難聴、精巣炎等の合併症を起こすことがあります。感染しても症状が現れない不顕性感染が30%程度あるとされています。

感染力はとても強く、咳等のしぶきによる飛まつ感染と唾液が付着した物への接触等による接触感染があります。予防対策には、手洗い、うがいを励行しましょう。また、任意による予防接種がありますので、かかりつけ医療機関にお尋ねください。

病原体検出情報で、27週に受付した無菌性髄膜炎疑い検体からMumps virus1件が検出されています。

○百日咳に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第27週の0.13から第28週では0.07と減少していますが、中央東で増加し、中央東では注意報値を超えています。定点医療機関からのホット情報では2例の報告があります。

百日咳は、感染力が強く、軽症でも菌の排出があるため、注意が必要です。

特に生後6ヶ月未満の乳児では無呼吸発作等、重篤になる場合もあるので、予防接種をしていない新生児、乳児がいる場合は感染に対する注意が必要です。

予防対策は予防接種、うがい、手洗い、咳エチケットです。感染予防のためにワクチン接種をお勧めします。ワクチンは生後3ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

○マイコプラズマ肺炎に気を付けて！

第28週は基幹定点からの4例に加えて、定点医療機関からのホット情報で27例、感染症情報収集システムでは16例の報告があり、引き続き注意が必要です。

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマによって起こる呼吸器感染症で、幼児期から学童期によく見られます。感染経路は主に飛まつ感染や接触感染です。保育園や幼稚園、学校、あるいは家庭内などでの濃厚な接触で感染します。患者からの感染力は発症から10日前後（症状持続の例でも6週間程度）で消失しますが、この間は濃厚な接触をなるべく避けるようにしましょう。

予防対策はうがい、手洗い、咳エチケットを行い、流行時には予防対策に加えて、室内の換気をよく行いましょう。

7月15日 日本脳炎ウイルス感染の注意報が発令されました！

高知県衛生研究所で実施している感染症流行予測調査において7月11日に採取したブタの血清検査からブタが日本脳炎ウイルスに感染したことが判明しました。

日本脳炎は、日本脳炎ウイルスを媒介するコガタアカイエカが、そのウイルスに感染したブタの血液を吸血した後、ヒトを刺すことによりヒトが感染します。日本脳炎ウイルスがヒトからヒトへと感染することはありません。

予防対策と注意事項

- ①蚊（コガタアカイエカ）に刺されないように注意する。
- ②予防接種を受ける。（かかりつけ医に相談してください。）
- ③十分な栄養をとり、過労を避ける。

☆マダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS）に注意！

日本紅斑熱やSFTS（重症熱性血小板減少症候群）はマダニが媒介する感染症です。

すべてのマダニが病原体を持っているわけではありませんが、ダニに咬まれないようにすることが感染の予防になります。予防するためのワクチン等はありません。マダニは木の葉や草むらの土の表面に生息しています。

野山や畑、草むらなどに出かけるときは、次のことに注意しましょう。

- ▲肌を出さないよう、長袖、長ズボン、長靴、帽子、手袋等を着用しましょう。
- ▲マダニ用の忌避剤を使用する。
- ▲草の上に直接座ったり、寝転んだりしない。敷物を利用する。
- ▲脱いだ上着やタオルは、不用意に地面や草の上に置かない。
- ▲帰宅後は、すぐに入浴してマダニに咬まれていないか確認し、新しい服に着替えましょう。
- ▲野外から帰った犬や猫はダニが付着している可能性があるため、よく見てあげましょう。
- ▲吸血中のマダニを見つけたら、無理に引き抜こうとせず、医療機関を受診し処置してもらいましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～2週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。また受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに刺されたこと）を申し出て下さい。

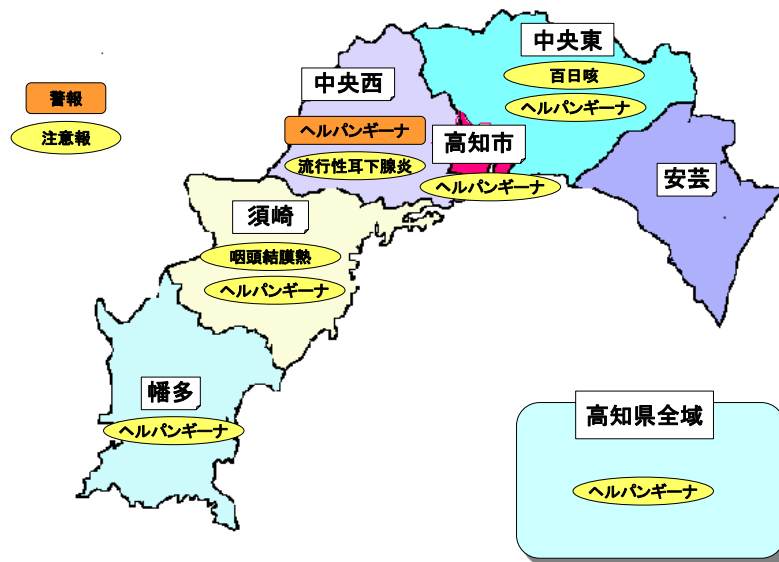
- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>
- 高知県衛生研究所 マダニによる感染症の注意喚起パンフレットを作成しました。
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2016061300063.html>

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減
 28週（7月11日～7月17日）

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
ヘルパンギーナ	→	3.53	中央西、須崎、安芸で増加し、中央西では警報値を超え、高知県全域と中央東、高知市、須崎、幡多では注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	→	2.43	中央東、安芸で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	0.97	幡多、安芸、須崎で増加しています。
流行性耳下腺炎	↗	0.93	中央西、中央東、高知市で増加し、中央西では注意報値を超えています。
手足口病	↘	0.77	幡多で増加しています。

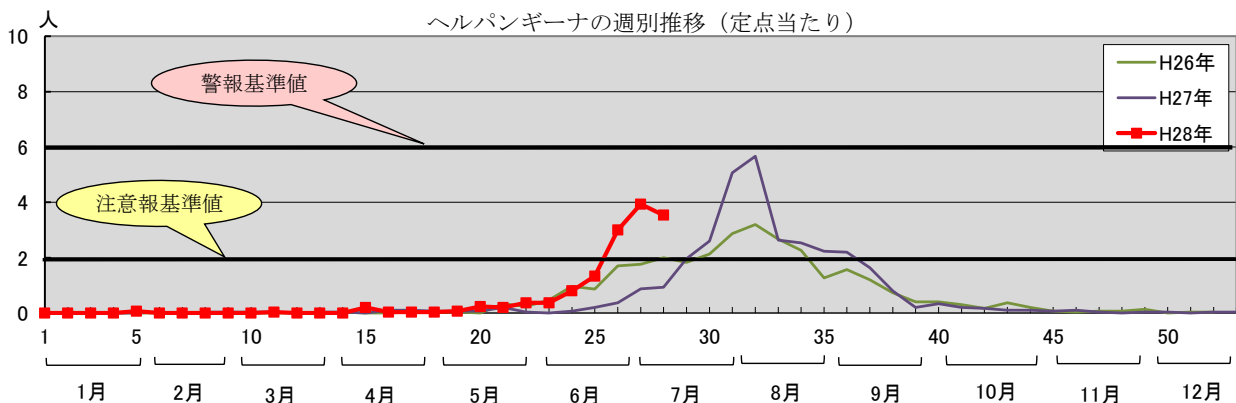
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

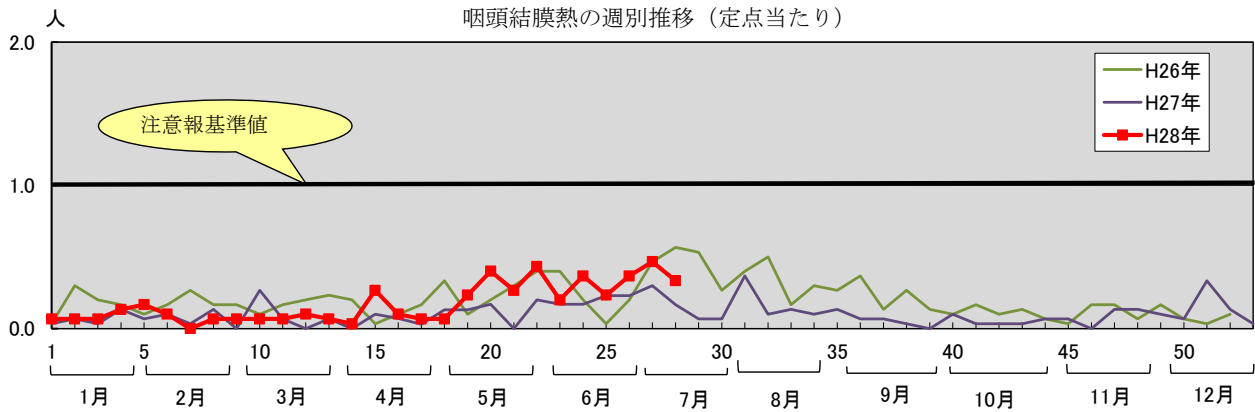
○ヘルパンギーナ 第28週： **3.53**（注意報値：2.00 警報値：6.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり3.53（前週：3.93）とほぼ横ばいですが、中央西10.00（前週：3.00）、須崎3.00（前週：2.00）、安芸1.00（前週：0.00）で増加し、中央西では警報値を超え、高知県全域と中央東、高知市、須崎、幡多では注意報値を超えています。



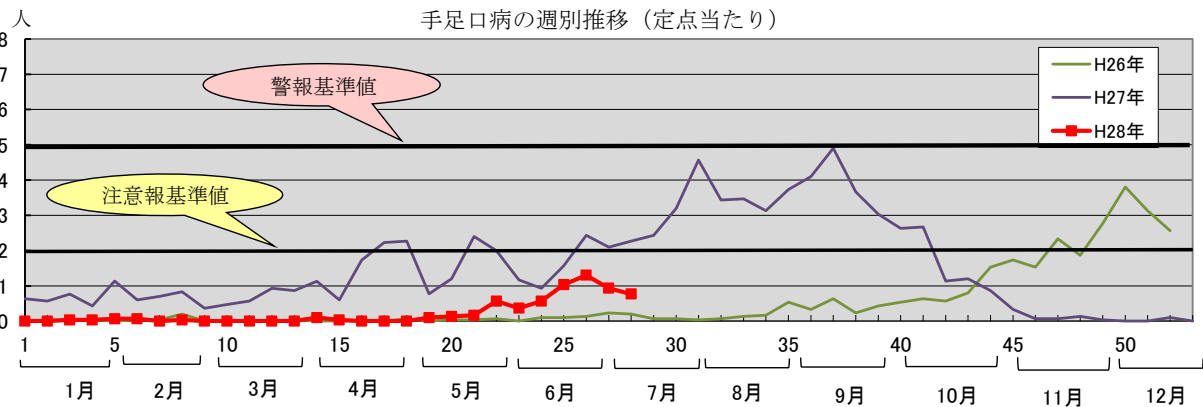
○咽頭結膜熱 第28週： 0.33 (注意報値：1.00 警報値：3.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり0.33(前週：0.47)と減少していますが、中央東0.43(前週：0.14)で増加し、須崎では注意報値を超えています。



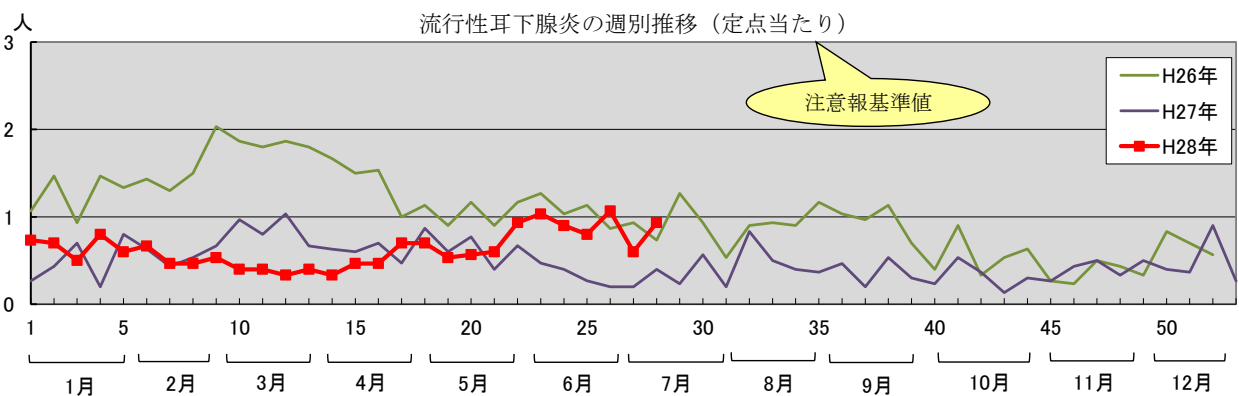
○手足口病 第28週： 0.77 (注意報値：2.00 警報値：5.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり0.77(前週：0.93)と減少していますが、幡多1.00(前週：0.00)で増加しています。



○流行性耳下腺炎 第28週： 0.93 (注意報値：3.00 警報値：6.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり0.93(前週：0.60)と増加しています。中央西3.33(前週：1.00)、中央東0.71(前週：0.29)、高知市0.36(前週：0.27)で増加し、中央西では注意報値を超えています。



★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
28	百日咳	11	男	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
26	インフルエンザ様疾患、無菌性髄膜炎	13	男	幡多	Human herpes virus 7
27	不明発疹症	10	男	中央東	Epstein-Barr virus
27	不明発疹症(突発か?)	11ヶ月	男	須崎	Human herpes virus 6
27	無菌性髄膜炎疑い	2	男	幡多	Mumps virus

★全数把握感染症

第28週

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	62	40歳代女	幡多
		1	63	80歳代女	中央西
		1	64	80歳代女	中央東
3類	腸管出血性大腸菌感染症	1	3	5~9歳代男	高知市
		1	4	30歳代女	
		1	5	50歳代男	
4類	つつが虫病	1	1	10歳代男	中央東

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報	
中央東	あけぼのクリニック	アデノウイルス咽頭炎2例(9ヶ月、1歳)	
		マイコプラズマ感染症7例(内5例核酸同定陽性 8歳2人、10歳2人、12歳、13歳2人)	
		百日咳1例(52歳 PT-IgG100EU/ml)	
	おひさまこどもクリニック	土佐山田の小2でムンプス流行:6月の終わりから第一波、28週に第二波	
	高知大学医学部附属病院小児科	アデノウイルス感染症1例(12歳男)	
	野市中央病院小児科	ノロウイルス腸炎1例(6歳女)	
高知市	けら小児科・アレルギー科	出血性腸炎病原性大腸菌O-25(ペロ毒素陰性)1例(10ヶ月女)	
		早明浦病院小児科	嘔吐型セレウス菌感染性胃腸炎1例(7歳女)
		細木病院小児科	百日咳1例(6歳女 PT-IgG160EU/ml以上)
			マイコプラズマ10例(2歳女、4歳男女、5歳男2人、5歳女、6歳男2人、8歳男、9歳男)
			アデノウイルス扁桃炎2例(2歳女、3歳女)
			ヒトメタニューモウイルス感染症1例(2歳女)
	カンピロバクター腸炎4例(3歳女、5歳女、8歳男:同胞 8歳男)		
	福井小児科・内科・循環器科	カンピロバクター1例(6歳女)	
		ノロウイルス1例(7ヶ月女)	
		溶連菌感染症7例	
		伝染性紅斑1例(3歳女)	
	三愛病院小児科	流行性耳下腺炎1例(9歳女:ワクチン未接種)	
		ヘルパンギーナ、手足口病がはやっている。	
		アデノウイルス感染症1例(4歳女)	
		高知医療センター小児科	RSウイルス感染症1例(1歳男)
アデノウイルス(+)2例(1歳女、4歳男)			
A群レンサ球菌(+)1例(4歳男)			
ヒトメタニューモウイルス感染症(+)1例(1歳女)			
病原性大腸菌(+)2例(0ヶ月女2人)			
中央西	くぼたこどもクリニック	突発性発疹1例(1歳8ヶ月:須崎市)	
須崎	もりはた小児科	マイコプラズマ肺炎7例(6歳、7歳2人、9歳、10歳3人)	
		カンピロバクター腸炎1例(3歳男)※27週検出	
幡多	こいけクリニック	マイコプラズマ肺炎3例(5歳男女、8歳男)	
	さたけ小児科	膿痂疹2例(0歳男、1歳女)	

■ジカウイルス感染症の定義と発生届について

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の施行令が一部改正され、平成28年2月15日からジカウイルス感染症が全数報告の対象となる四類感染症となりました。

診断した医師は直ちに最寄りの保健所又は福祉保健所に届け出ることをお願いします。

- 国立感染症研究所 ジカウイルス感染症のリスクアセスメント 2016年6月16日更新

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/>

- 厚生労働省検疫所 海外感染症情報

<http://www.forth.go.jp/index.html>

- 外務省 海外安全ホームページ

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

- 国立国際医療研究センター ジカ熱/ジカウイルス感染症 2016年7月8日更新

<http://www.dcc-ncgm.info/topic/topic:ジカウイルス感染症/>

- ジカウイルス感染症 定義 (厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/01-04-44.html>

- ジカウイルス感染症 発生届様式 (PDF)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/pdf/01-04-44b.pdf>

- ジカウイルス感染症について (厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109881.html>

- 政府広報オンライン 何が危ない？ どう防ぐ？ジカウイルス感染症 (ジカ熱) 予防のポイント

<http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201605/2.html>

- オリンピック・パラリンピックでブラジルへ渡航される方へ

<http://www.forth.go.jp/news/2016/02051708.html>

★全国情報

第26号 (6月27日～7月3日)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核414例

3類感染症：細菌性赤痢4例、腸管出血性大腸菌感染症118例、腸チフス3例

4類感染症：E型肝炎3例、A型肝炎5例、エキノコックス症1例、重症熱性血小板減少症候群4例、つつが虫病2例、デング熱8例、日本紅斑熱3例、マラリア1例、レジオネラ症32例

5類感染症：アメーバ赤痢14例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症21例、急性脳炎8例、クロイツフェルト・ヤコブ病4例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症7例、後天性免疫不全症候群14例、侵襲性インフルエンザ菌感染症4例、侵襲性肺炎球菌感染症12例、水痘 (入院例に限る) 3例、梅毒62例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん3例

報告遅れ：E型肝炎3例、日本紅斑熱7例、レジオネラ症6例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症18例、急性脳炎4例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症5例、水痘 (入院例に限る) 1例、梅毒37例、風しん2例、薬剤耐性アシネトバクター感染症1例

★注目すべき感染症

◆ 麻しん・風しん 2016年第1～26週 (2016年7月6日現在)

日本は現在、麻しん、風しんの対策について、2015年3月に国際的な認定を受けた国内における麻しんの排除状態を維持すること(麻しんに関する特定感染症予防指針、2007年12月28日告示、および早期に先天性風しん症候群(congenital rubella syndrome: CRS)の発生をなくし、2020年度までに国内から風しんを排除すること、を目標にしている(風しんに関する特定感染症予防指針、2014年3月28日告示)。本稿は、主に感染症発生動向調査に基づく国内の麻しん、風しんの直近の疫学状況に関する情報を提供することを目的としている。

2016年第1～26週に診断された麻しん(2016年7月6日現在)は10例であり、うち、検査診断例が9例であった。前年同時期と比べると16例減少した。男性5例、女性5例であり、年齢中央値は29歳(範囲0～63歳)であった。この間の都道府県別の報告数は東京都3例、埼玉県、兵庫県各2例、茨城県、群馬県、三重県各1例であった。推定感染地域は国内が4例であり国外が6例(インドネシア3例、モンゴル2例、カタール1例)と報告されていた。ワクチン接種歴については、接種歴がない、または不明の症例が10例中9例であった。麻しんウイルスの遺伝子型は7例で報告されており、その内訳はD8型5例、B3型1例、H1型1例であった〔麻疹ウイルス分離・検出状況(2016年6月22日現在)〕。

次に風しんについては、2016年第1～26週に診断された風しん(2016年7月6日現在)は80例であり、検査診断例が62例(78%)であった。前年同時期と比べると16例減少した。男性47例(59%)、女性33例(41%)であり、年齢中央値は30.5歳(範囲1～78歳)であった。この間の都道府県別の報告数は愛知県14例、東京都11例、大阪府9例、千葉県7例、兵庫県7例、神奈川県6例、静岡県6例、埼玉県4例、福岡県3例、岐阜県2例の順であった。推定感染地域は国内が71例(89%)であり国外が7例(9%:ベトナム3例、インド3例、フィリピン1例)と報告されていた。ワクチン接種歴については、接種歴がない、または不明の症例が80例中56例(70%)であった。80例中、30～50代男性が26例(33%)を占めたが、2015年度の感染症流行予測調査によると、30代後半から50代男性の年代は風しん抗体保有状況が低いことが知られている。風しんウイルスの遺伝子型は7例で報告されており、その内訳は2B型6例、1E型1例であった〔風疹ウイルス分離・検出状況(2016年6月22日現在)〕。

麻しんは、年齢にかかわらず命に関わる重篤な疾患である。また、その感染拡大防止のためには、麻しん風しん混合ワクチンの定期接種の徹底による予防が最も重要であり、感染者の早期探知と迅速な対応も欠かせない。日本土着とされてきた麻しんウイルス(D5型)は2010年5月以降に国内では検出されていないが、海外からの麻しん輸入例は麻しん排除認定以降も継続して報告されており、2016年第1～26週に診断された症例の多くは海外渡航歴のある、あるいは海外渡航者に関連のある症例が多い。

一方、風しんは、一般的には数日で治癒する予後良好な疾患であるが、風しんウイルスが妊娠初期の妊婦に感染することで、児にCRSを引き起こす可能性が高まる。国内では特に成人男性において感受性者が残されており、風しんを排除し、CRSの発生をなくすためには、1期および2期の定期接種率を高く維持することに加えて、成人男性への対策も重要である。成人の症例が多数を占める風しんについては、特に、職場での対策は重要とされている。

また最近、麻しんおよび風しんに共通して、海外からウイルスが持ち込まれたことが示唆される報告が多くみられるため、日本国内にウイルスを持ち込まないために、海外での流行状況に応じて、流行地域への渡航者に対しては、ワクチン接種歴等を確認の上、必要に応じて渡航前にワクチン接種が行われることが推奨される。

今後の海外からの麻しんおよび風しんの輸入例の増加に対しては、最初に患者と接する可能性が高いのが医療機関であることから、事前の予防策として、事務職を含むあらゆる医療関係者においては、2回以上の麻しん風しん混合ワクチン接種歴の確認と必要な場合の接種の推奨が重要であることを改めて強調したい。また、発熱・発疹を呈する急性感染症の患者が医療機関を受診する際に、重要となるのが問診であり、医療関係者が発熱・発疹患者に対して聞き取りを行う場合には、麻しん、風しんの流行国を把握し(例、西太平洋地域における麻しん・風しん流行状況)、渡航歴や発熱・発疹患者との接触歴、予防接種歴などの確認を慎重に行うことが重要である。感染症発生動向調査2011年第1週～2015年第53週までに届出された麻しん4,719例のうち、確定例1,449例と取り下げ例3,270例を比較したところ、海外渡航歴あり(確定例14%、取り下げ例3%)、麻しんワクチンの予防接種歴なし(確定例34%、取り下げ例21%)、周囲の麻しん流行あり(確定例23%、取り下げ例2%)のいずれの項目においても、実際に確定例において多く認められていたことは注目される。

.....

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第28週 平成28年7月11日(月)～平成28年7月17日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第28週					計	前週	全国(27週)	高知県(28週末累計)		全国(27週末累計)
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H28/1/4～H28/7/17	
インフルエンザ	インフルエンザ									133 (0.03)	14,926 (310.96)	1,582,477 (319.82)	
小児科	咽頭結膜熱		3	3	2	2	10 (0.33)	14 (0.47)	1,932 (0.61)	146 (4.87)	38,536 (12.20)		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	2	13	3	2	7	29 (0.97)	54 (1.80)	8,027 (2.54)	1,761 (58.70)	230,477 (72.98)	
	感染性胃腸炎	6	26	34	1	2	4	73 (2.43)	77 (2.57)	14,368 (4.55)	4,424 (147.47)	528,742 (167.43)	
	水痘	1	2				1	4 (0.13)	15 (0.50)	1,210 (0.38)	201 (6.70)	35,395 (11.21)	
	手足口病		7	7	2	2	5	23 (0.77)	28 (0.93)	2,008 (0.64)	189 (6.30)	10,579 (3.35)	
	伝染性紅斑	1		5	1			7 (0.23)	7 (0.23)	1,249 (0.40)	200 (6.67)	39,479 (12.50)	
	突発性発疹	1	3	7	3		1	15 (0.50)	10 (0.33)	1,751 (0.55)	277 (9.23)	40,270 (12.75)	
	百日咳		1	1				2 (0.07)	4 (0.13)	96 (0.03)	59 (1.97)	1,506 (0.48)	
	ヘルパンギーナ	2	23	34	30	6	11	106 (3.53)	118 (3.93)	9,920 (3.14)	427 (14.23)	30,650 (9.71)	
	流行性耳下腺炎		5	4	10			9	28 (0.93)	18 (0.60)	3,838 (1.21)	529 (17.63)	76,124 (24.11)
RSウイルス感染症			2					2 (0.07)	1 (0.03)	432 (0.14)	587 (19.57)	24,652 (7.81)	
眼科	急性出血性結膜炎									12 (0.02)		229 (0.33)	
	流行性角結膜炎									586 (0.85)	11 (3.67)	12,248 (17.75)	
基幹	細菌性髄膜炎								1 (0.13)	9 (0.02)	3 (0.38)	242 (0.51)	
	無菌性髄膜炎			1			3	4 (0.50)	3 (0.38)	34 (0.07)	22 (2.75)	583 (1.23)	
	マイコプラズマ肺炎		3				1	4 (0.50)	9 (1.13)	365 (0.77)	137 (17.13)	6,923 (14.61)	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			1				1 (0.13)		8 (0.02)	26 (3.25)	200 (0.42)	
	感染性胃腸炎								2 (0.25)	33 (0.07)	232 (29.00)	4,966 (10.48)	
計 (小児科定点当たり人数)	13 (6.50)	75 (10.29)	112 (9.99)	52 (17.33)	14 (7.00)	42 (7.60)	308 (9.96)			46,011	24,157 (604.30)	2,664,278	
前週 (小児科定点当たり人数)	2 (1.00)	84 (11.85)	187 (16.09)	23 (7.67)	17 (8.50)	48 (8.80)		359 (11.52)					

注 () は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第28週					計	前週	全国(27週)	高知県(28週末累計)		全国(27週末累計)
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H28/1/4～H28/7/17	
インフルエンザ	インフルエンザ									0.03	310.96	319.82	
小児科	咽頭結膜熱		0.43	0.27	0.67	1.00	0.33	0.47	0.61	4.87	12.20		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	0.29	1.18	1.00	1.00	1.40	0.97	1.80	2.54	58.70	72.98	
	感染性胃腸炎	3.00	3.71	3.09	0.33	1.00	0.80	2.43	2.57	4.55	147.47	167.43	
	水痘	0.50	0.29				0.20	0.13	0.50	0.38	6.70	11.21	
	手足口病		1.00	0.64	0.67	1.00	1.00	0.77	0.93	0.64	6.30	3.35	
	伝染性紅斑	0.50		0.45	0.33			0.23	0.23	0.40	6.67	12.50	
	突発性発疹	0.50	0.43	0.64	1.00		0.20	0.50	0.33	0.55	9.23	12.75	
	百日咳		0.14	0.09				0.07	0.13	0.03	1.97	0.48	
	ヘルパンギーナ	1.00	3.29	3.09	10.00	3.00	2.20	3.53	3.93	3.14	14.23	9.71	
	流行性耳下腺炎		0.71	0.36	3.33		1.80	0.93	0.60	1.21	17.63	24.11	
RSウイルス感染症			0.18				0.07	0.03	0.14	19.57	7.81		
眼科	急性出血性結膜炎									0.02		0.33	
	流行性角結膜炎									0.85	3.67	17.75	
基幹	細菌性髄膜炎							0.13	0.02	0.38	0.51		
	無菌性髄膜炎			0.20			3.00	0.50	0.38	0.07	2.75	1.23	
	マイコプラズマ肺炎		3.00				1.00	0.50	1.13	0.77	17.13	14.61	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			0.20				0.13		0.02	3.25	0.42	
	感染性胃腸炎								0.25	0.07	29.00	10.48	
計 (小児科定点当たり人数)	6.50	10.29	9.99	17.33	7.00	7.60	9.96			604.30			
前週 (小児科定点当たり人数)	1.00	11.85	16.09	7.67	8.50	8.80		11.52					

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）

〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）

TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869